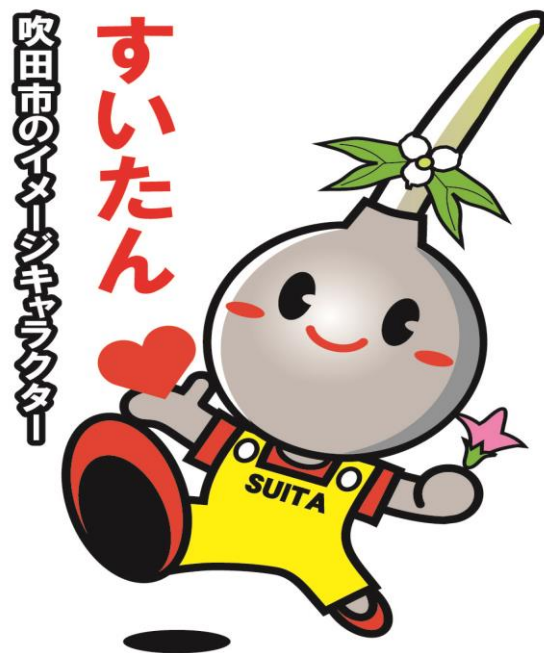


吹田市地域ケア会議

平成29年度(2017年度)の報告及び
平成30年度(2018年度)の取組について



平成30年(2018年)4月

吹田市地域ケア会議

目次

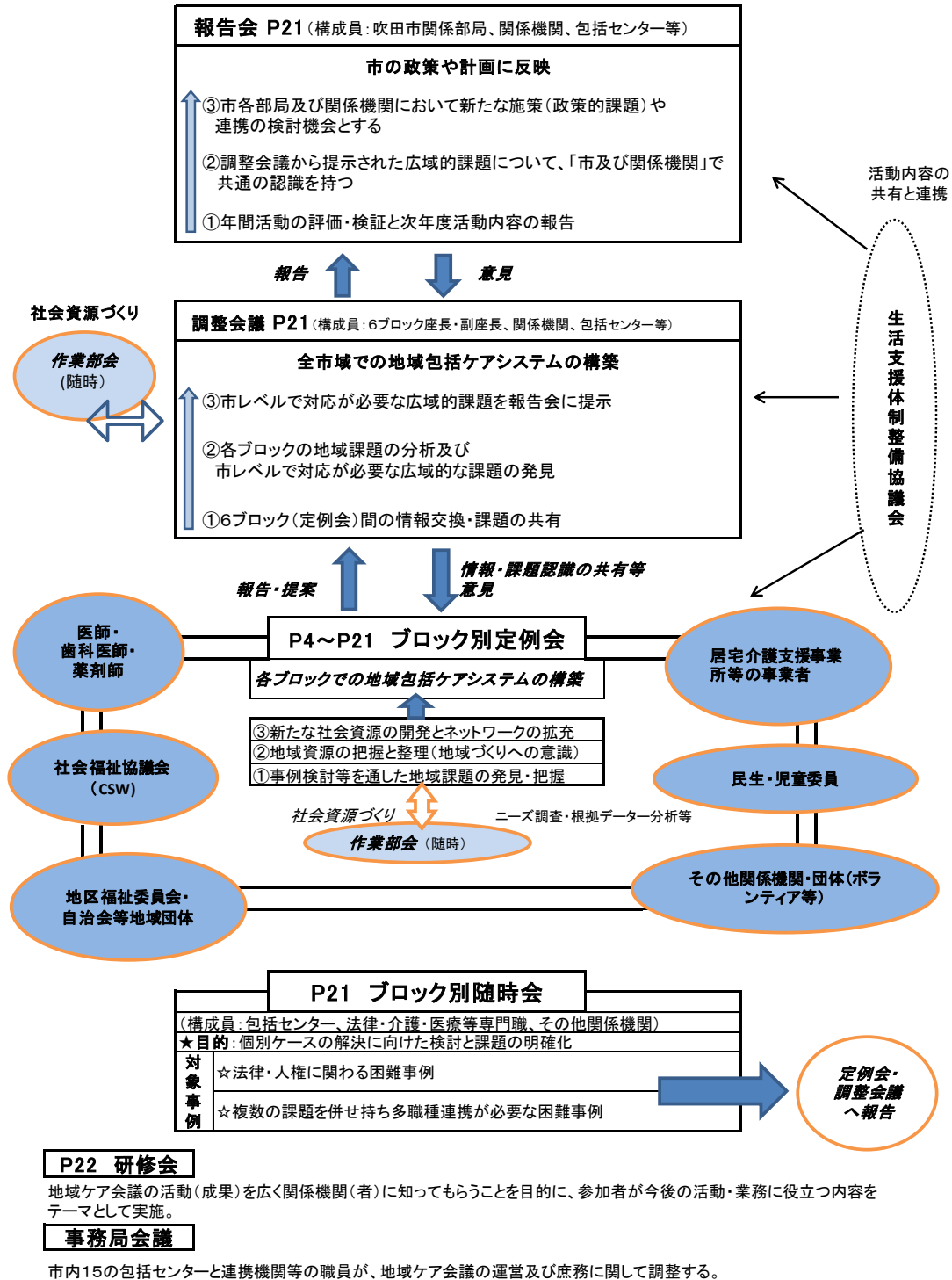
はじめに	1
吹田市地域ケア会議の構成と運営（図）	2
1 平成29年度（2017年度）の地域ケア会議	3
2 ブロック別定例会	4
（1）平成29年度（2017年度）の活動	4
新しい事例提供用紙と別紙事例の項目	6
JR以南地域ブロック別定例会	8
片山・岸部地域ブロック別定例会	10
豊津・江坂・南吹田地域ブロック別定例会	12
千里山・佐井寺地域ブロック別定例会	14
山田・千里丘地域ブロック別定例会	16
千里ニュータウン・万博・阪大地域ブロック別定例会	18
（2）平成30年度に向けた取組予定	20
3 ブロック別随時会	20
4 調整会議及び報告会	21
5 研修会	21
6 これからの地域ケア会議	23
7 平成29年度（2017年度）吹田市地域ケア会議開催実績表 ／各ブロック別定例会参加者数	25
8 平成30年度（2018年度） 吹田市地域ケア会議開催日年間予定表	26

はじめに

本市では、介護保険制度開始後まもなくの平成14年度(2002年度)から地域ケア会議を開催しています。介護の公的社会保険制度に取り組み始めた市と、ケアマネジャーを始めとする介護、医療の専門職と地域の支援者等多くの関係者の参加のもと、介護、保健、医療、福祉等の各サービスの活用ならびに専門職と地域の連携やネットワーク構築を図る総合調整の推進の場として、開始から16年が経過しました。介護保険制度の普及や改正に伴って、構成員や検討課題は拡大しており、関係者の高い問題意識を礎として、現在まで継続されています。

地域ケア会議は様々な関係機関や地域団体等とネットワークを形成する貴重な場として、また支援を必要とする市民への包括的、継続的な支援を検討する重要な場として活用されていますが、近年は、地域課題に目を向けた活動が活発化していることもあり、このたびはブロック別でシートを作成する等、活動内容の報告を工夫しました。高齢者を取り巻く課題が多様化、複雑化する中で、関係機関や地域がどのような検討や実践を行っているか等を共有していただき、今後の高齢者を支援する様々な活動の参考にさせていただければと思います。

【吹田市地域ケア会議の構成と運営】



1 平成29年度(2017年度)の地域ケア会議

平成29年度の地域ケア会議は、以下の4点を課題として取り組みました。
(平成29年度発行の「報告と取組」より)

(1)関係機関や地域の方々との連携がより円滑となり、また地域の課題を具体的に明らかにし、具体的な解決方法を見つけるためには、地域ケア会議の開催を積み重ねていく必要があります。また、より多くの関係機関に参加を促しながら顔の見える関係づくりに努めます。

(2)高齢者の支援に関わる制度や事業、個別課題の解決に関連する制度のほか、参加者の関心のあるテーマについて、学習の場を設定していく必要があります。特に、複合的にサービスを必要とする事例に備え、介護保険制度だけではなく、関連する制度につきましてもより理解を深めます。

(3)高齢者虐待防止に向けたネットワークとしての役割を担うためにも、地域ケア会議を通じて関係者と連携を強め、高齢者虐待防止に関する制度の主旨・内容を周知します。

(4)地域ケア会議の5つの機能(①個別課題解決機能 ②ネットワーク構築機能 ③地域課題発見機能 ④地域づくり・資源開発機能 ⑤政策形成機能)の内、特に③地域課題発見機能、④地域づくり・資源開発機能をより実行できるように取り組んでいく必要があります。

地域ケア会議の基礎であるブロック別定例会では、この地域ケア会議全体の課題を意識しながら会議運営をすすめ、事例検討やブロック独特の地域課題への議論を重ねました。

2 ブロック別定例会

(1)平成29年度(2017年度)の活動

平成29年度の取組予定は以下の6点としていました。(平成29年度発行の「報告と取組」より)

- (ア)ケアマネジャー等への支援や利用者・家族をサポートするために、ケアマネジメントへの助言や問題提起を通して、構成機関である多職種との連携を強めながら、より充実したネットワークの形成に努めます。
- (イ)事例検討は支援困難事例に限定せず成功事例を含めて事例提供者の問題意識を基礎に検討を行い、事例検討を通して地域で起こっている様々な課題を把握するとともに、課題解決に向けての道筋を明らかにしていきます。
- (ウ)高齢者虐待防止に向けた総合的な推進体制の構築に向けて、高齢者虐待防止施策に関する会議と連携しながら、主体的に取り組んでいきます。
- (エ)ケアマネジャーからの事例提供だけでなく、他の構成員にも積極的に事例提供を行うよう促します。
- (オ)検討する事例に関連した制度や事業のほか、必要に応じてテーマを定め学習します。
- (カ)定例会の開催回数は年5回開催していますが、平成29年度におきましても同様の開催を目標とします。

平成29年度の地域ケア会議ブロック別定例会については、(ア)から(カ)に示した取組の方針をふまえて、各ブロックが活動を行いました。ブロック別の活動については、P9～20のブロック別シートにまとめています。地域に根ざした情報の共有や地域課題への解決の提案等、これまで以上に地域の特性に応じた活動が活発化していることが特徴となっています。事例提供の工夫について

は、ポイントを明確にし、課題を共有しやすい事例提供用紙の形式を検討し、調整会議での意見を反映の上、新様式を作成しました。事例提供者からは「書類作成の時間が短縮され、事例提供の負担が軽減された。」「参加者から幅広い見地の役立つ意見が挙げられている。」と好評です。各ブロック別定例会での活用が始まっています。(様式は P7~8 参照)

また、第4回のブロック別定例会については、(ウ)の取組として、愛知県が作成した高齢者虐待対応の DVD を活用した学習に取り組みました。全ブロックが統一した内容に取り組み、グループワークも実施しました。高齢者虐待の具体的な事例を鑑賞するとともに、市や地域包括支援センターのどのような目的をもって高齢者や養護者に対応するかについても、地域包括支援センターの職員が詳しく解説を行いました。

定例会後に集約した感想としては、「通報を受けてから終結に至るまでの地域包括支援センターの動きがよく分かった」、「地域住民との関わりの場面もあったため、地域での関わりの重要性を意識し、日頃から高齢者の様子を見守りたい」といったものがありました。しかしながら、依然として虐待かどうかの基準や通報という行為に対する戸惑いが見受けられるため、疑いの時点で地域包括支援センターに相談してもらえるようなネットワークを構築できるように、継続しての啓発が必要であると考えます。定例会の冒頭では、地域ケア会議が高齢者虐待防止に向けたネットワークの役割を担っていると説明しておりますが、取組後にはようやくその意義が理解できたとの感想もあり、多機関・多職種が集う地域ケア会議の各ブロックで取り組むことの意義を実感しました。

定例会後、今回の DVD を用いた取組の内容を事業所研修でも行いたいとの御要望が上がってきていることから、愛知県に承諾を得た上で、今後は出前講座として地域包括支援センターが行っていくモデルケースにもなりました。吹田市の統計データについては、全市分だけではなく、各ブロックの地域特性が分かるようなデータも出すことで、虐待がより身近な問題であると捉えてもらえるのではないかという課題も上がりました。次年度以降については、統一した取組ではなく、各ブロックの特性を踏まえた内容や事例検討を行うことで、啓発していくこととします。

新しい事例提供用紙

事例提供用紙						
						(NO. _____)
テーマ (タイトル)						
事例の項目						
キーワード						
Aさんの概要						
性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	年齢		歳代	介護認定	
世帯構成	<input type="checkbox"/> 独居 <input type="checkbox"/> 高齢者世帯 同居: <input type="checkbox"/> 昼間独居 <input checked="" type="checkbox"/> 家族在宅 子ども: <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし					
病名	<input type="checkbox"/> 脳血管疾患 <input type="checkbox"/> 神経性難病(_____) 認知症: <input type="checkbox"/> アルツハイマー型 <input type="checkbox"/> その他 (_____) その他 (_____)					
ADL(歩く、食べる等日常生活での基本動作)及び精神の状況	室内移動: <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 介助 屋外移動: <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 介助 排泄: <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 介助 食事: <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 介助 食事準備: <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 支援 金銭管理: <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 支援 精神状況(_____) その他 (_____)					
生活状況	日中の活動: 日中の介護: 夜間の介護:					
Aさんのニーズ(要求)						
現在の援助計画(方針)						
利用しているサービス(ケア内容等)	訪問介護(週 _____ 回)、訪問看護(週 _____ 回) 通所サービス(週 _____ 回)、福祉用具(_____) 配食サービス(週 _____ 回)、インフォーマル(_____)					
助け合いの力	<input type="checkbox"/> ゴミ捨て <input type="checkbox"/> 食べ物を届けてくれる <input type="checkbox"/> 買い物 <input type="checkbox"/> 外出付添い <input type="checkbox"/> 話し相手 <input type="checkbox"/> 声かけ訪問 <input type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> その他 (_____)					
事例提供者が具体的に困っていること						

別紙 事例の項目

項目	キーワード例
認知症に関する事例	初期診断に関する対応・地域ネットワーク構築・認知症の理解・環境変化における対応・行動障がいへの取組み・認知症治療に関する事・精神疾患における医学的・心理的な状況 等
社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	地域支援・社会資源と特徴と対応・社会資源との連携・社会資源介入と対応・地域特性と社会資源の関係・生活保護制度・成年後見制度利用・虐待事例 等
家族への支援の視点が必要な事例	家族に疾患がある場合の対応・家族が本人の生活機能に強く影響する場合の対応 等
助け合いや近所の方と連携した事例	助け合い・高齢者の集いの場・高齢者の居場所・参加・高齢者の役割 等
リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例	筋力低下改善・日常運動の強化・住宅改修・福祉用具利用・外出支援・高齢者の外出先の開発 等
看取り等における看護サービスの活用に関する事例	生活機能低下における対応・生きがいの実現・看護サービス利用について 等
入退院時における医療との連携に関する事例	医療チームへの伝達・介護チームへの伝達・難病の取組・医療の活用 等
状態に応じた多様なサービス地域密着サービスや施設サービスの活用に関する事例	生活機能推進 等

参考:(大阪府)介護支援専門員専門研修Ⅰ・Ⅱ、主任介護支援専門員更新研修の事例提出について

JR 以南地域ブロック別定例会

地域包括支援センター 2か所

① 吹一・吹六地域包括支援センター

② 吹三・東地域包括支援センター

地域情報	人口	34,917 人	
	高齢者人口	10,357 人	
	高齢化率	29.7%	
	要介護・要支援認定者数、事業対象者数	要介護認定者数	1,630 人
	要支援認定者数	692 人	
	事業対象者数	3 人	

平成 29 年度の報告

① 検討した事例のテーマと分類、内容等

※ 1 の（項目）は、P8 の事例の内容が「別紙 事例の項目」のどれに該当するかを示しています。

第 2 回：1 事例 テーマ「無賃乗車を繰り返す独居高齢者への介入について」

（項目）※認知症に関する事例

第 3 回：1 事例 テーマ「それでも自宅での生活を続けたい」

～アルコール依存症が疑われるが、病識が乏しいケース～

（項目）社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例

第 4 回：共通テーマ「高齢者虐待防止」について

第 5 回：1 事例 テーマ「社会資源を活用した徘徊高齢者への支援について」

（項目）社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例

- ・ 事例検討を 3 例行い、また、事例に即した制度や事業等を説明するミニ学習会、地域の活動や社会資源等を紹介しました。
- ・ 昨年度からの地域課題による作業部会「お風呂に行こう」の最終報告を作成しました。また、今年度も介護フェアが福祉委員、歯科医師、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）等の協働で、地域で開かれました。
- ・ 高齢者虐待の基礎学習と虐待防止について研修しました。（共通事例）

② 取組の成果、地域分析や新たに把握した地域課題

※ 2 矢印→の後のカタカナは、P4 の平成 29 年度に取組予定としていた項目を示しています。

- ・ 事例検討で今後の支援に役立つ助言を行い、事例提供者が実際に助言を実践してより良い支援ができました。また、疾病や徘徊高齢者 SOS ネットワーク事業等のミニ学習会等を行い、吹田市高齢者社会資源リスト「集いの場」等の情報を共有し、知識や技術の向上を図っています。今年度は独居で精神的に何らかの疾患を有している事例や認知症の事例が続きました。地域との関係に希薄になりやすい独居高齢者の生

活実態の把握が、個人情報保護法との兼ね合いもあって困難であるとの意見が出ています。今後、地域でどのような支援を行えるかが課題になってくると考えています。→ (ア) (オ) ※2

- ・ 作業部会において、住民アンケート結果からは平成 29 年 4 月末時点で入浴手段の確保ができていない住民はいないという結果となり、定例会で報告をすることができました。また介護フェアは第 2 回目を迎え、約 100 名の参加がありました。→ (イ)
- ・ 出席者それぞれの立場から発言、検討をしてもらうことができ、地域ケア会議が高齢者虐待防止のネットワークの役割を担っていることが理解できたという感想も頂けました。→ (ウ)

平成 30 年度 of 取組予定 (期待する効果等)

- ・ 精神的な疾患を有している独居高齢者を発見するだけでなく、買い物に行きにくい、集まる場所がない、神崎川にまたがる橋が移動の制限になっている、との課題が既に抽出されています。そのため、地域ケア会議は個別事例の検討だけではなく、地域、関係機関と一緒に解決に向けて検討をしていく場としていきたいと考えています。
- ・ 地域課題解決のためのグループワークでは、参加者全員が改善に向けて主体的に意見交換、発表を行っています。次年度は問題解決に向けた様々な意見交換や取組を地域のコミュニティソーシャルワーカー (CSW) と連携して実施することで、支援者が地域と共に動いていく仕組みが強化されると期待しています。

片山・岸部地域ブロック別定例会

地域包括支援センター 2 か所

① 片山地域包括支援センター

② 岸部地域包括支援センター

地 域 情 報	人口	54,084 人	
	高齢者人口	13,053 人	
	高齢化率	24.1%	
要介護・要支援認定者数、事業対象者数	要介護認定者数	1,808 人	平成 29 年 4 月末
	要支援認定者数	823 人	
	事業対象者数	24 人	

平成 29 年度の報告

① 検討した事例のテーマと分類、内容等

※ 1 の（項目）は、事例の内容が P8「別紙 事例の項目」のどれに該当するかを示しています。

第 2 回：2 事例 テーマ①「独居高齢者と社会とのつながりについて」

（項目）※ 1 助け合いや近所の方と連携した事例

テーマ②「高齢の兄弟で弟が兄を介護しているケース」

（項目）家族への支援の視点が必要な事例

第 3 回：2 事例 テーマ①「不安神経症による行動についての対応」

（項目）認知症に関する事例

テーマ②事例紹介「いつまでも住み慣れた家で暮らしたい」

（項目）状態に応じた多様なサービス地域密着サービスや施設サービス等の活用に関する事例

第 4 回：共通テーマ「高齢者虐待防止」について

第 5 回：2 事例 テーマ①「独居の認知症高齢者の支援について」

（項目）認知症に関する事例

テーマ②「娘が旅行中、認知症の利用者を近所の助け合い等で見守ろうとしたケース」

（項目）助け合いや近所の方と連携した事例

- ・ 昨年度から引き続き 1 回の会議で 2 事例の検討を実施しています。
- ・ 事例提供者は、民生・児童委員、社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー（コミュニティソーシャルワーカー（CSW））、ケアマネジャー、地域密着型サービス事業所等に協力をお願いしました。
- ・ 事例に関係するミニ学習を行ないました。（小規模多機能型居宅介護について）

②取組の成果、地域分析や新たに把握した地域課題

※2 矢印→の後のカタカナは、P4の平成29年度に取組予定としていた項目を示しています。

- ・毎回50名前後の参加者があり、地域課題を把握、問題解決に向けてのグループワークを行い地域住民、事業所、医療機関等それぞれの立場で話し合うことができました。→
(ア) ※2
- ・民生委員からの事例では、自治会や近隣住民との交流が薄くなってきており、「孤立」という問題があり、孤立せずに生活するためには、近隣住民だけではなく事業所も地域との関わりを持てるような地域づくりの必要性を感じました。→ (イ) (工)
- ・地域密着型サービスの事業所から事例提供があり、あまり身近ではない社会資源についても学ぶことができました。→ (工) (オ)
- ・地域やサービス事業所等と繋がっていない方の中には、地域包括支援センター等に相談することを敷居が高いと感じている住民もいる。→ (イ)
- ・高齢者虐待防止については、DVDを使った研修がわかりやすく、疑問があると思ったらまずは地域包括支援センターに相談し、情報を共有することが大事であることを確認しました。(ウ)
- ・「介護者支援の会」等の取組を報告し、「集いの場」の一つとしての活用やケアマネジメントの支援につながるよう情報共有を行いました。→ (ア)

平成30年度取組予定（期待する効果等）

- ・個別課題の解決のために事例検討を継続し、必要に応じてミニ学習会も行います。
- ・地域課題で上がってきた課題「地域づくり」「認知症」「独居（孤立）」解決の実現に向けて取組を進めます。

豊津・江坂・南吹田地域ブロック別定例会

地域包括支援センター 2か所

① 南吹田地域包括支援センター

② 豊津・江坂地域包括支援センター

地 域 情 報	人口	66,154 人	
	高齢者人口	12,201 人	
	高齢化率	18.4%	
要介護・要支援認定者数、事業対象者数	要介護認定者数	1,529 人	平成 29 年 4 月末
	要支援認定者数	722 人	
	事業対象者数	16 人	

平成 29 年度の報告

① 検討した事例のテーマと分類、内容等

※ 1 の（項目）は、事例の内容が P8「別紙 事例の項目」のどれに該当するかを示しています。

第 2 回：1 事例 テーマ「独居で精神疾患のある方がよりよい生活をするために」

（項目）※ 1 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例

第 3 回：2 事例 テーマ①「家族からの支援が困難になっている独居高齢者」

（項目）家族への支援の視点が必要な事例

テーマ②「スーパーがなくなり、生活がしづらくなっている事例」

（項目）社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例

第 4 回：共通テーマ「高齢者虐待防止」について

第 5 回：2 事例 テーマ①「サービス導入に抵抗があり、家族の介護認識も薄いと感じられる軽度認知症の方への支援」

（項目）認知症に関する事例

テーマ②「地域の人と一緒に運動ができる場について」

（項目）状態に応じた多様なサービスや地域密着型サービス等の活用に関する事例

- ・ 今年度は各回で次回に検討したい内容や学習したい内容について出席者から意見を聞き、その意見を踏まえたテーマの事例を居宅介護支援事業所に提供いただくよう、協力をお願いしました。
- ・ 第 3 回から地域包括支援センターの事例も検討するようにし、1 回の会議で 2 事例の検討を試みました。
- ・ 平成 28 年度にまとめた「地域の特色を活かして」の成果物を毎回参加者にも配付し、グループワーク時の参考にできるようにしました。
- ・

<ul style="list-style-type: none"> 事例検討については、参加者のそれぞれの立場でどのような支援ができるか、今はないが必要な資源等について等、視野を広げた意見交換を行いました。
<p>②取組の成果、地域分析や新たに把握した地域課題</p>
<p>※2 矢印→の後のカタカナは、P4の平成29年度に取組予定としていた項目を示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援困難ケースの事例検討では、解決に向けて地域の支援者、ケアマネジャー、サービス事業者等の経験にもとづく具体的な意見が交換され、それぞれの立場で具体的な支援の参考になりました。 →(ア) ※2 スーパーがなくなって買い物に困っている事例の検討では、各地域包括支援センターの圏域内で、スーパーがなくなった、スーパーが大型薬局に変わった、買物ができる場所まで遠い、買物に行く手段がないのでタクシーを利用する等、買物に困っているという地域課題が把握できました。課題の解決に向けた必要な制度や支援の情報、地域の特色を生かした身近な工夫等について具体的な話し合いができました。→(ア) (イ) 高齢者虐待防止については、DVDを使った研修がわかりやすく、地域包括支援センターへ相談することの大切さや、養護者である家族の支援の必要性について理解することができました。→(ウ) 平成29年度4月から開始となった新しい訪問型短期集中サポートサービスを利用し、目標としていた生活を獲得した成功事例についても検討し、制度の学習とあわせ、高齢者の身体機能の改善と生活の質の向上について、共通認識とすることができました。 →(イ) (オ)
<p>平成30年度取組予定（期待する効果等）</p>
<ul style="list-style-type: none"> 事例提供について引き続き居宅介護支援事業所のご協力をいただくとともに、地域包括支援センターも事例提供をし、毎回2事例を検討します。 事例検討やミニ学習会は参加者の意見を踏まえた内容で開催し、事例検討を通じて制度等の活用方法を提示する等、役に立つ様々な情報提供の機会を確保します。 地域課題の把握につなげられるような事例検討を行います。支援困難だけでなく、基本チェックリスト該当者や要支援認定者等の軽度者の事例も検討し、広く介護予防も含めた課題と対応策を検討していきます。

千里山・佐井寺地域ブロック別定例会

地域包括支援センター 2 か所

① 千里山西地域包括支援センター

② 千里山東・佐井寺地域包括支援センター

地 域 情 報	人口	53,869 人	
	高齢者人口	10,322 人	
	高齢化率	19.2%	
要介護・要支援認定者数、事業対象者数	要介護認定者数	1,278 人	平成 29 年 4 月末
	要支援認定者数	636 人	
	事業対象者数	24 人	

平成 29 年度の報告

① 検討した事例のテーマと分類、内容等

※ 1 の（項目）は、事例の内容が P8「別紙 事例の項目」のどれに該当するかを示しています。

第 2 回：事例「高齢者マンションに住む高齢者の今後の暮らしについて」

（項目）※ 1 認知症に関する事例

第 3 回：学習会「社協ってご存知ですか？」

～誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指して～

第 4 回：共通テーマ「高齢者虐待防止」について

第 5 回：事例「専門職の提案を受け入れず、家族独自のやり方で介護をしている事例」

（項目）家族への支援の視点が必要な事例

② 取組の成果、地域分析や新たに把握した地域課題

※ 2 矢印→の後のカタカナは、P4 の平成 29 年度に取組予定としていた項目を示しています。

- ・ 年間の司会者とファシリテーターを固定しておくことで介護支援専門員の能力向上に繋がり、また参加者全員の活発な意見交換を促すことが出来ました。
→（ア）※ 2
- ・ グループワークの意見をまとめ次の定例会で配布することで内容の可視化を行い、参加者が地域の問題について共有しやすい工夫を行いました。 →（イ）
- ・ 課題としては、坂が多いため高齢になると外出が困難になることが挙げられ、強みとしては、大きな大学があるので学生の協力が得られるのではないかと地域の特性を踏まえた意見が伺えました。また、ボランティア活動の希望者に対し、参加しやすいボランティア養成やとりまとめの必要性があるとの意見がありました。 →（ア）（イ）
- ・ 学習会では社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）による事業説明や事例紹介を通して、機関の機能について理解が深まり、参加者が具体的な相談・連携イメージを持つことが出来ました。
→（エ）（オ）

- ・ 高齢者虐待防止について DVD で学習を行い、家族への支援や早期発見の視点等、参加者が今後気にかけていきたいことを積極的に考える機会となりました。 → (ウ)

平成30年度 of 取組予定 (期待する効果等)

- ・ 今年度同様介護支援専門員の資質向上に努め、参加者が定例会の在り方を主体的に考えていけるようにしたいです。
- ・ 参加者のニーズに応じて関係機関と連携し、地域の機関や社会資源の情報共有、またボランティアの活用や養成の情報について共有できる機会を設けます。
- ・ 学びたいテーマについても多様なニーズがあったため、来年度も参加者の関心や希望を反映した学習会を企画します。
- ・ 事例提供は介護支援専門員に限らず様々な立場からの個別事例を検討し、対応方法の検討や地域課題の把握・共有を行います。また、地域住民の住みやすい地域づくりについて具体的な検討を行います。

山田・千里丘地域ブロック別定例会

地域包括支援センター 3か所

- ① 千里丘地域包括支援センター
- ② 山田地域包括支援センター
- ③ 亥の子谷地域包括支援センター

地 域 情 報	人口	94,218 人	
	高齢者人口	20,903 人	
	高齢化率	22.2%	
	要介護・要支援認定者数、事業対象者数	要介護認定者数	2,085 人
	要支援認定者数	951 人	
	事業対象者数	44 人	

平成 29 年度の報告

① 検討した事例のテーマと分類、内容等

※1の(項目)は、事例の内容がP8「別紙 事例の項目」のどれに該当するかを示しています。

第2回：1事例 テーマ「近隣のスーパーの閉店により買い物が不便になった地域」
(項目) ※1 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例

第3回：1事例 テーマ「認知症高齢者を地域でどのように支えられるか」
(項目) 認知症に関する事例

第4回：共通テーマ「高齢者虐待防止」について

第5回：1事例 テーマ「認知症になっても地域で暮らし続けるために」
(項目) 認知症に関する事例

- ・定例会作業部会から発足した「高齢者支援福祉マップ作成委員会」が作成した、千里丘・山田・亥の子谷、それぞれの地域の「高齢者支援福祉マップ」を配布。
- ・事例検討については、多職種連携のほか、主に地域の力による活動・支援が必要なケースについて検討した。

②取組の成果、地域分析や新たに把握した地域課題

※2 矢印→の後のカタカナは、P4の平成29年度に取組予定としていた項目を示しています。

- ・事例検討では、構成員や参加者がそれぞれの立場での、経験や知識を活かした意見交換をすることで、問題解決の参考にすることができた。→(ア) ※2
- ・近隣のスーパーの閉店により、買い物不便地域となった問題の事例については、地域住民による系列店舗への積極的な働きかけにより、買い物のためのシャトルバスが運行されることになった。

その中で、生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、コミュニティソーシャルワーカー

カー（CSW）も地域づくりにおける関わりを持つことが出来た。

また、事例検討を通して「買い物不便地域」や「交通の不便地域」等、地域課題の現状を把握できた。→（ア）（イ）

・高齢者虐待防止については、DVDを使った研修により、地域包括支援センターへ相談することの大切さや、養護者である家族の支援の必要性について理解を深めることができた。→（ウ）

・認知症問題の事例検討については、実際に地域で支援活動をしている4つの団体に参加いただき、「活動内容の共有・情報交換」や「認知症高齢者と家族を、協働で支援できるネットワーク構築の必要性」について議論できた。

今後の課題としては、「支援活動について、地域住民や関係機関の理解がまだまだ足りない状況」や「活動場所の確保」、「地域での持続した支援活動の難しさ」等が挙げられる。→（ア）（イ）（エ）

平成30年度の実行予定（期待する効果等）

・「高齢者を地域の力でどのように支えるか」という視点で議論・検討を積み重ねることにより、地域課題を把握し、課題解決に向けた取り組みをしたい。

・「構成員（参加者）の、構成員（参加者）による、構成員（参加者）のための定例会」を意識した運営をめざしたい。

千里ニュータウン・阪大・万博地域ブロック別定例会

地域包括支援センター 4 か所

- ① 桃山台・竹見台地域包括支援センター
- ② 佐竹台・高野台地域包括支援センター
- ③ 津雲台・藤白台地域包括支援センター
- ④ 古江台・青山台地域包括支援センター

地域情報	人口	66,445 人	
	高齢者人口	19,614 人	
	高齢化率	29.5%	
	要介護・要支援認定者数、	要介護認定者数	2,655 人
	事業対象者数	要支援認定者数	1,527 人
	事業対象者数	25 人	平成 29 年 4 月末

平成 29 年度の報告

① 検討した事例のテーマと分類、内容等

※ 1 の（項目）は、事例の内容が P8「別紙 事例の項目」のどれに該当するかを示しています。

【取り組んだ内容】

- ・今年度のブロック別定例会は、「地域住民（民生・児童委員、地区福祉委員、自治会）の方が、地域の中での気になる方、気になることを話しやすい、相談しやすい地域ケア会議」を目指し、小学校区単位程度のグループで、グループ毎に「地域の中で気になる方、気になることを、解決するための具体的な対応策を考える」を 1 年間（第 1 回、2 回、3 回、5 回）を通じて取り組みました。
- ・第 3 回：地域の取組から学ぶ「桃山お陽さまネットの取組」（今年度の取組みの一環として）
- ・第 4 回：共通テーマ「高齢者虐待防止」について

【事例検討】

- 第 2 回：事例 テーマ「子供のいない高齢者夫婦への地域の助け合い」
 （項目）※ 1「認知症に関する事例、助け合いや近所の方と連携した事例」
- 第 3 回：事例 テーマ「近隣の気付きにより、支援につながったケースのこれから」
 （項目）「助け合いや近所の方と連携した事例」

② 取組の成果、地域分析や新たに把握した地域課題

※ 2 矢印→の後のカタカナは、P4 の平成 29 年度に取組予定としていた項目を示しています。

【取り組んだ内容の成果】

- ・第 5 回定例会で今年度のまとめとして、1 年間を通して取り組んだことを参考に、「地域の中で気になる方、気になること」に対して、自分たちで行なえそうな対応策・目標をまとめました。 ⇒（ア）※ 2

- ・事例検討では、近隣の方の手助けや気づき・連携により専門機関に繋がる事が出来ており、地域の助け合いは日常生活に困りごとがある場合、より一層の力になることが再認識できました。⇒（イ）
- ・ミニ学習会として、桃山台地域の取組を聞き、グループ毎に自分たちの地域の強みについて考えることで、第5回定例会でのグループ毎に考える今年度の取組みのまとめ（解決するための対応策）に役立てました。⇒（オ）
- ・年間を通じて同じ校区のグループ分けで行なったことで、より身近なこととして意見交流ができました。又、地域の状況が把握でき、顔見知りになるメリットがありました。⇒（ア）

【取り組んだ内容の課題】

- ・今年度は年間を通じて「地域の中で気になる方、気になること」について、解決するための具体的な対応策を考えましたが、連続して参加できなかった方にとっては、議論の流れが分かり辛いとの声もあり、「1回の参加でも議論できる」方法の検討が必要です。
- ・年間を通じて同じグループで行ったことで、介護事業所の方からは、「他地区の住民の方や介護事業所の方と話す機会がなかった」という声もあり、「他地区の方と話す機会ができる」方法の検討が必要です。

【地域分析】

- ・住区単位では、公営住宅等の建て替えがあった地域で、近所付き合いが希薄になったという声や高齢化率が50%を超えている住区が数地区あります。

平成30年度の取組予定（期待する効果等）

【取組方針】

- ・平成29年度の活動・取組を生かし、専門職・地域住民・行政が協働して、それぞれの立場で具体化できるような取組みを目指します。
- ・構成員の住民の方が、医療機関や介護保険事業者に対し、気になる方（こと）を話しやすい、相談しやすい場になるように努めます。
- ・1回の参加でも、取組み（テーマ）に対して議論して具体的な対応策を考えることができる方法を検討します。
- ・1年間を通じて、基本的には小学校区毎のグループでの意見交流・議論を行います。他地区の地域住民の方や医師会・歯科医師会・薬剤師会、介護保険事業所の方と意見交流ができる方法を検討します。

(2)平成30年度に向けた取組予定

今年度の課題の主な取組から導き出した、次年度への課題や活動予定については各ブロックが主体的にシートにまとめていますが、ブロック別定例会に共通する特徴や課題は以下のとおりであると考えています。

- (ア)ブロック別定例会については、各地域包括支援センターが主体的に運営をすすめるとともに、基幹型地域包括支援センターである高齢福祉室が全ブロックの課題等の取りまとめや、調整会議、報告会への提案を行います。
- (イ)地域住民や団体、地域の支援者が主体である身近な社会資源が十分に情報提供され、地域生活において浸透、活用がすすむように、地域資源や住民活動を開発促進する取組や協議会、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)との連携を強化し、支援を求める方とサービスの担い手とのつなぎを支援します。
- (ウ)6ブロックが個別事例を積み重ねることで、地域のネットワーク構築の更なる基盤強化をめざします。また、地域における課題の発見と把握をすすめ、その解決に向けてフォーマル、インフォーマルサービスの整理、新たな解決方法の検討等、地域づくりや資源開発の機能を果たしていきます。

3 ブロック別随時会

支援困難事例を抱えるケアマネジャー等からの随時の要請に基づき、そのニーズに見合う適切な支援を提供するため、地域包括支援センターの各専門職、地域の介護・保健・医療・福祉関係者や弁護士、警察署等との連携のもと、具体的な支援・方策の検討やサービスの調整等を行う場として随時会を開催しています。

平成29年度に検討した事例は1事例あり、以下のとおりです。

【片山・岸部ブロック】

開催日 平成29年5月24日(水)

「認知症により金銭管理・生活維持が困難な家族からの支援が望めないケース」

この随時会では、弁護士・社会福祉士の参加を要請、多重債務問題

や成年後見制度等の検討を行うことができ、その後の課題解決にあたることができました。

平成30年度についても積極的に開催し、1つの機関では支援が困難な高齢者について、ケアマネジャー等から随時の要請に基づき、そのニーズに見合う適切な支援を提供するため、地域包括支援センターの各専門職や地域の関係機関との連携のもと、具体的な支援や方策の検討及びサービスの調整を行います。

4 調整会議及び報告会

平成29年度の調整会議では、6ブロックから定例会の報告を行い、各ブロックがどのような活動を行っているのかを共有し、それぞれのブロック別定例会の運営の参考にすることができました。また、随時会での検討結果の報告や、事例検討用紙の変更についての提案、研修会内容の検討が行われました。

平成30年度についても、各ブロック別定例会での活動内容、随時会での事例検討結果の報告や、各ブロックから全市的課題として提案された事項の検討等を行い、その結果を各関係機関が共通の認識と捉える場とします。

また、平成30年度以降は、各ブロックから報告された活動内容や活動成果、発見できた地域課題について議論することで、市レベルでの対応が必要な広域的課題の発見につなげていきます。

発見できた広域的課題については、報告会において市の関係部局に提示し、新たな施策や連携の検討機会とすることを提案していきます。

報告会は年1回の開催を予定しており、調整会議で集約したブロック別ケア会議の内容及び調整会議における検討内容を報告するとともに、地域ケア会議の運営、あり方についても検証する場とします。

5 研修会

平成30年2月20日(火)、吹田市保健センター3階研修室で、京都看護大学教授の三輪真知子氏を講師にお招きし、「高齢になっても住み続けたい地域をつくるには～ひとりひとりが地域でいきいきと暮らすためには～」をテーマに講演を行い、131名の参加がありました。

また、第2部として地域住民、事業所、当事者等による座談会を行いました。実際に「地域づくり」に取り組んでおられる方々や、支援を受けている当事者の方が意見交換をすることで、地域におけるネットワーク構築の重要性について再認識することができました。



静岡県函南町での実践活動についてご講義いただきました



座談会では、認知症の当事者の方にもご参加いただきました

そして、次年度以降の参考とするため、研修会終了後に参加者にアンケートを行い、様々な感想や御意見をいただきました。

アンケートの集計結果につきましては、以下のとおりです。

・今回の研修は役に立つ内容でしたか。

- ア 非常に役に立つ (20人) イ 役に立つ (55人)
- ウ 普通 (11人) エ 役に立たない(0人)
- オ 全く役に立たない(0人) カ 無回答(2人)

・研修で学んだことは、今後の仕事に活かせそうですか。

- ア 非常に活かせる (14人) イ 活かせる (56人)
- ウ 普通 (16人) エ 活かさない(0人)
- オ 全く活かさない (0人) カ 無回答(2人)

(感想)

・地域の方々との関わりをどのように深めていけばよいか課題。地域の方々安心して笑顔で暮らせるまちづくりを、できることから一つ一つ考えていきたい。

・地域作りには世代間交流の促進が大切なことと、高齢者だけでの支えあいが難しくなっていることを聴き、多くの人をまきこんでいきたいと思った。

・どのように地域で、地域の方々を巻き込み、寄合いワークショップを実施するか、また、そこから掘り下げて地域課題の解決方法を見出していくかが難しく思う。

・「地域のないもの探しではなく、あるもの探しをしてもらおう」と言っていたのが印象的だった。

・多くの方が、高齢になっても住み続けたい地域を作るにはどうしたらいいのだろうと真剣に考えており、驚きと喜びがあった。

・座談会が非常によかった。今回の座談会のように、当事者自身の思いを、安心して発表できる場を継続して作ってほしい。

・当事者の方が何を考えていらっしゃるのか、どうすれば地域作りがまとまっていくか。地域ケア会議の必要性を感じる。

・吹田市は、それぞれの地域の特色があるので、同じような取り組みは難しいかもしれないが、「人や社会とつながることが健康に良い」と聴き、健康的な地域づくりのお手伝いをしたいと思った。

それぞれのブロックで取り組んでいる地域課題の抽出や地域づくりの検討に役立つ内容であり、定例会で取り組んだワークショップ手法の振り返りにもなった等、今後の活動の参考となりました。

今後の研修会についても、各ブロックの定例会で議論している地域課題や関心ごとが多様化していることを踏まえてテーマを検討してまいります。平成30年度については、全体で1回の開催を予定しています。

6 これからの地域ケア会議

平成27年4月1日施行の介護保険法改正において、地域ケア会議の開催は、地域包括ケアシステムの実現の有効なツールとされ、市は地域ケア

会議を設置し(努力義務)、個別ケースの検討と地域課題の検討の両方を行うものであることが明記されました。

地域ケア会議の他に市が取り組む事業として、「高齢者になり支援が必要になった時に、自分らしい生活を送れる地域はどんな地域か。そのためには今どのような活動が必要か。」の検討や、社会資源の開発促進を市民や関係団体と一緒にすすめている協議体があります。(「吹田市高齢者生活支援体制整備協議会」) 支援者側のネットワークに加え、担い手側の体制整備についても重視し、地域ケア会議で蓄積している活動内容を広く他の協議体等とも共有することで、地域ケア会議の実績が市民に十分に還元できるように、取り組むことが重要です。

各項でもお示しましたが、地域ケア会議については地域包括支援センターを中心に、それぞれが地域に根ざした、地域の特色を生かした会議開催がすすめられてきています。すべての地域包括支援センターが協力し、効果的で効率のよい会議運営を実施してまいります。

平成30年度は、第7期吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第7期吹田健やか年輪プラン)の初年度となります。第7期計画において市は、地域包括ケアシステムの深化・推進、介護保険制度の持続可能性の確保を大きな柱としています。その確実な推進には行政だけでなく、市民、事業者等とも広くかかわっていく必要があります。

地域ケア会議が積み上げてきた多職種、多団体とそのネットワークの構築が、広く、効果的に活用され、地域での主体的な取組、後押しを生み出すことが、地域包括ケアシステム実現への大きな力となります。その力となれますよう、地域ケア会議の活動をより充実させてまいります。

平成29年度(2017年度) 吹田市地域ケア会議 実施状況

	平成29年(2017年)												平成30年(2018年)			備 考	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
報 告 会	●																4月の第3木曜日
調 整 会 議			●								●					●	当該月の第3木曜日等
研 修 会																	
ブロック別 ケア会議 定例会	J R 以 南	16		18	19	19	21	21	21	16	16	16	16	16	16	16	当該月の第3火曜日等
	片 山 ・ 岸 部	17		19	20	20	15	15	17	17	17	17	17	17	17	17	当該月の第3水曜日
	豊 津 ・ 江 坂 ・ 南 吹 田	19			21		17	17									当該月の第3金曜日等
	千 里 山 ・ 佐 井 寺	18		20	20	21	16	16									当該月の第3木曜日
	山 田 ・ 千 里 丘	16			18	19	19	21	21								当該月の第3火曜日
千里ニュータウン・万博・阪大	16			18	19	19	21	21									当該月の第3火曜日
随 時 会	24																

平成29年度(2017年度) 各ブロック別定例会参加者数(単位:人)

	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大	備 考
定例会	42	57	35	49	43	40	
第1回	42	55	48	51	41	46	
第2回	29	50	45	41	46	45	
第3回	36	53	41	38	36	32	
第4回	33	58	43	40	37	39	
第5回	182	273	212	219	203	202	総合計 ⇒ 1,291人

平成30年度(2018年度) 吹田市地域ケア会議 開催日年間予定表

	平成30年(2018年)												平成31年(2019年)				備 考
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月				
報 告 会	19												18			4月の第3木曜日	
調 整 会 議					16									21		年2回	
研 修 会																	
ブロック別 ケア会議 定例会	J R 以 南	15	17	18	19	20	21	16	20	15						当該月の第3火曜日 内本町コミュニティセンター	
	片 山 ・ 岸 部	16	18	19	20	21	16	21	16	16						当該月の第3水曜日 総合福祉会館	
	豊 津 ・ 江 坂 ・ 南 吹 田	18	20	19	21	20	21	16	16	18						当該月の第3金曜日 総合福祉会館	
	千 里 山 ・ 佐 井 寺	17	19	17	19	20	21	15	15	17						当該月の第3木曜日 千里山コミュニティセンター	
	山 田 ・ 千 里 丘	15	17	17	19	18	19	20	20	15						当該月の第3火曜日 亥の子谷地域保健福祉センター	
千里ニュータウン・万博・阪大	15	17	17	19	19	19	21	21	16							当該月の第3火曜日(または第3木曜日) 千里ニュータウンプラザ	
随 時 会																	

